

## 卓球競技実施要領（身体・知的・精神）

### 1. 競技規則

平成31年度に適用の全国障害者スポーツ大会競技規則（（公財）日本障がい者スポーツ協会制定）及び日本卓球ルール（（公財）日本卓球協会制定）によるもののほか、この要領に定めるところによる。

### 2. 競技方法

- (1) 競技種目は、一般卓球とサウンドテーブルテニス（S T T）とし、5ゲームマッチ（1ゲーム11ポイント）で行う。
- (2) 試合は原則として、各ブロック5名以内のリーグ戦方式とする。
- (3) 出場選手が少ない障害区分及び年齢区分では、別の障害区分及び年齢区分の選手と合わせて同一ブロックを構成することがある。ただし、順位の設定、記録の認定及び表彰は、それぞれの障害区分別に行う。

### 3. 競技用具等

#### (1) 試合球

- ア 一般卓球 （公財）日本卓球協会公認プラスチック球：40mm白球とする。
- イ S T T （公財）日本障がい者スポーツ協会公認プラスチック球：40mmオレンジ球とする。

- (2) S T T の出場者はアイマスクを装着すること。招集所でアイマスクの検査を受け、着脱についてはプレー領域に入る前に着用し、終了後プレー領域を出るまで着用しなければならない。（アイマスクを外す場合は主審が認めたときのみ）

- (3) ラケットは各自用意すること。

### 4. 競技服装等

- (1) ゼッケンは競技服の上着の背部に付けること。
- (2) 義肢や松葉杖を使用する選手は、特に支障がない限り接触面にあてがう布やカバー等を用意すること。

### 5. 選手招集

- (1) 選手招集時刻は、試合開始15分前とする。
- (2) 選手招集時刻に遅れた選手は、原則として棄権したものとみなし、試合に出場できない。

### 6. 表彰

- (1) 表彰は、各ブロックごと、障害区分別及び年齢区分別に行う。
- (2) 選手は、表彰案内時刻に表彰会場にブロックナンバーごとに集合、着席すること。

## 7. その他

競技場内へは、選手、大会役員、競技役員、競技補助員、あらかじめ許可された介助者等以外は立ち入ることができない。

## 【参考】

- (1) 肢体不自由者および知的障害者については、フリーハンド（ラケットを持っていない手の手首より先）がコートに触れても失点としない。ただし、コートを支えて打ったり、テーブルを動かしてはならない。
- (2) 身体的理由により主審の承認を得、主審が相手方にサービスの仕方について変更を知らせた場合には、サービスの規定を緩和することができる。  
また、知的障害についても、主審が対戦相手の不利にならないと認めた場合、サービスの規定を緩和することができる。
- (3) 車いす使用者が正しく出されたサービスをレシーブする際ボールが、①レシーバーのコートに触れた後、ネット方向に戻った場合、②レシーバーのコートに止まった場合、③レシーバーのコートに触れた後、どちらかのサイドラインを横切った場合は、ラリーはレットとなる。ただし、「レット」が宣告される前に打球した場合は、そのまま有効となる。
- (4) 知的障害が原因と認められる試合の中断があった場合、1つのマッチでの中断時間は最大10分間とする。また、速やかな試合進行のために、審判、監督、介助者等が競技者に進行を促す言葉をかけたり選手に触れることができる。